



# くぼたつ

久保田達也(くぼた・たつや): 冒険家、NAPU大学名誉人文学博士、ラシュモア大学教授、工学院専門学校インターネット科特別講師、日経新聞ビジネスセミナー常任講師。

## くぼたつヒマラヤ探検隊～第一話 体力と愉快さで大雪崩の撮影に成功

エベレスト街道トレッキング8日間(最高高度3800m、距離37km)からカトマンズ市内のホテルに帰ると、さっそくデジタルカメラのムービーを再生させた。8000m級の山々にそびえ立つ夜明けのチョモランマ、突然対面の山肌に轟音をとどろかせて起きた雪崩、恐怖のつり橋渡り、雪あり雨あり快晴ありの中を行くトレッキング、仲間の笑いどきどきと苦悩。酒を飲みながら、2時間ほどの録画を見てまださめやらぬ冒険を満喫した。これがデジタルビデオの楽しいところだ。この模様はインプレスTVのくぼたつコーナーで放映中だ **Jump**。

持参した機材は2つ。山岳地域では天候が激変するため、雲間から山頂が見えた瞬間のシャッターチャンスを見逃さないようにデジタルカメラ(DSC-SX560、SANYO)を胸ポケットに入れて持ち歩いた。また、キャンプ地でムービー用三脚に2倍ズームレンズを装着したデジタルビデオカメラ(DCR-TRV10、SONY)を設置して夜明けのチョモランマを長時間撮影したり、QuickTimeVR加工を狙って360度撮影を試みたりした。このような撮影をする場合、肝心なのはカメラの性能でも技術でもない。高山病、寒さ、疲労に打ち勝って撮影できる“体力”と細かいことを気にしない“愉快さ”だ。もちろん、デジタルカメラも、手書きスケッチも、いいものだ。キャンプでは暇を見つけてはクロッキー風に2枚ほど描いた。街並みや山岳民族の生活をよく観察しながらのんびりと筆を走らせていると、見落としていたことやあらたな発見があって心がなごむ。最近はデジタルの手取り早さとアナログの手ごたえの両方をその場にに応じて使いこなすことが楽しいと思いはじめた。

11人のメンバーで望んだ上級者向けトレッキングコースだが、うち若干名は山登りの経験も浅い素人だった(ただしインターネットスキルはプロ級)。案の定、ヒマラヤ登山口でまず全員が軽いめまいか頭痛を経験する。つまりだれでも一度はかかる軽い高山病である。Mさんの場合、初日5kmの登りにして内心“もうだめ、あたしここでみんなの帰りを待ってる”と心に決めたそうだが、やはり女の底力は凄い。翌日、朝日を見た瞬間に心うきうき、気も晴れ晴れとなって再び登り始めた。しかし、帰国早々下痢が止まらず検査入院中。そういえば“このヨーグルトめっちゃうま、ちょっとすっぱいけど”と山ほど食いまくっていた。



Tさんの場合、「つらさの気晴らしに」とか言って、空気の薄さにあえぎながら登る最中も、サーダー(シェルパのボス)に「がちょ～ん」「おっはー」「ゆっほー」「あい～ん」をあきれるほど四六時中、しかも矢継ぎ早にジェスチャー付きで教えていた。いいかげんに切れたサーダーがとっとと先に登って行ってしまっても、Tさんはすぐに追いつきまた続きを教えていた。あるときTさんが突然8000mのヒマラヤ連峰に「やっほー」をやったところ10分後に対面に巨大な雪崩が起きた(この事実はビデオに収録)。しかしMさんに同じくカトマンズに下りてきたとたん激しい下痢で普通の人に戻ってしまった。帰国してからもまだ布団から起き上がれない状態のまままだそうで、夢で奇妙な踊りをしたサーダーができて脅かすそうだ。

S氏の場合、「私は歩き方を見れば登山歴がわかる」「山岳撮影というものはああでこうで」と解説しながら先頭を歩いていた。彼は、恐怖のつり橋を渡る途中、突風にあおられた瞬間“座頭市ポーズ”になった。ストックを片手に10cmも身をかかめたかっこうで渡り始めたのだ。無理もない、超怖いのだ。それ以来彼は「体温が戻らない」とか言って無口になってしまった。泣き面に蜂でそのうちに雪が降ってきて目的地に着いたときには顔はむくみ、目にはクマ状態、暖炉の前からは一步も動かなくなり、彼ご自慢のカメラワークもそのままに、やがて雪が晴れエベレストの絶景の夕日は暮れていった。高山病は山を降りれば治る。あとになってS氏は「あれはタダの風邪ですよ、ははは」と電話がきたが、ビデオには明らかにS氏のへにゃへにゃ高山病の姿が映っていた。次号へつづく……。

**Jump** [www.impress.tv/it/article/kkj.htm](http://www.impress.tv/it/article/kkj.htm)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)